

環境調査結果のお知らせ

光松・大鹿・浦場において養殖魚の餌食いが悪いとの連絡を受け、平成25年8月1日午前9時から環境調査を行いましたので、結果をお知らせします。

湾内の環境は、水温27.2～30.6℃、塩分30.3～32.0、溶存酸素濃度1.59～5.78mg/lでした。貧酸素水塊が浮上しており、2～5m層の溶存酸素濃度が低くなっています。

透明度は3m前後でした。検鏡の結果、有害種のカレニア・ミキモトイが最高32cells/ml、ケラチウム属が最高31cells/ml確認されました。

調査の結果、餌食いが悪化する主な原因は貧酸素水塊によるものと推測されました。慎重な養殖管理をお願いします。

海や養殖魚の状態に不安や変化を感じた時は、良く洗ったペットボトルに海水を汲む等して、水産試験場か中央漁業指導所まで連絡してください。

表1 水温(℃)

調査地点	目ノクソ	光松	大鹿	浦場
0m	30.6	30.4	30.2	30.2
2m	29.1	28.8	28.6	28.8
5m	27.5	27.7	27.7	27.9
10m	27.2	27.7	27.8	28.0
B-1m	27.4	27.6	27.6	28.0

表2 塩分

調査地点	目ノクソ	光松	大鹿	浦場
0m	30.3	30.3	30.5	30.5
2m	30.8	31.1	31.2	31.2
5m	31.3	31.5	31.5	31.6
10m	31.5	31.7	31.8	31.9
B-1m	31.8	32.0	32.0	32.0

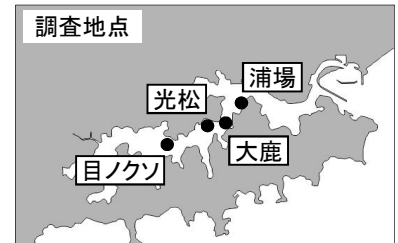


表3 溶存酸素濃度(mg/l)

調査地点	目ノクソ	光松	大鹿	浦場
0m	5.30	5.51	5.70	5.78
2m	3.94	4.72	3.96	4.75
5m	1.94	2.24	2.30	3.08
10m	1.59	3.54	3.68	4.87
B-1m	2.79	3.95	3.68	5.10

**漁業被害が想定される細胞密度**

- カレニア・ミキモトイ(へい死): 数百～数千cells/ml
- ケラチウム属(餌食いが悪化): 100cells/ml

表4 水深・透明度(m)

調査地点	目ノクソ	光松	大鹿	浦場
水深	15.1	16.7	16.7	12.4
透明度	3.1	3.1	2.8	3.1

表5 プランクトン(cells/ml)

		カレニア・ミキモトイ	ケラチウム属(フルカ、フス)	ジャイロディニウム属(ドミナンス、スピラレ)	プロロセントラム・シグモイデス	ケイ藻類
目ノクソ	0m	0	10	60	6	30
	2m	0	5	131	7	90
	5m	32	31	1	2	50
光松	0m	0	0	65	1	10
	2m	0	4	41	6	170
	5m	3	24	3	1	160
大鹿	0m	0	0	24	0	70
	2m	0	17	13	18	1,140
	5m	0	17	4	0	380
浦場	0m	0	2	12	0	1,020
	2m	0	7	9	9	1,620
	5m	0	5	1	5	1,440